

文化・芸術

「フロレンスの肖像」

油彩・カンバス
61・0 ㊦×48・3 ㊦

ロバート・ヘンライ (1865~1929年)

20世紀初頭の米国は、農村から移住してきた人々による都市への人口増加が加速した時代でした。ニューヨークには、地下鉄や摩天楼などが建設されます。大都市に生きる庶民の日常生活に目を向け、作品の主題にとりあげる画家たちがあらわれます。彼らは「ごみくずのようなものまで描く」という意味から「ごみ箱派」(アシュカン・スクール)とも呼ばれました。その中核にいたのがロバート・ヘンライです。ヘンライは、パリの美術学校に学び、マネやベラスケス、ハルスらの影響を受けたのち1900年に米国に帰ると、新しい時代の写実表現として、身近な人々の肖像を数多く描きました。

ここに紹介する作品は、ヘンライの友人の肖像です。自然な表情でありながら、明暗のコントラストの効果によって、どこかドラマチックな雰囲気醸し出されています。本作のモデルとなったフロレンスに贈った一点なのでしょう。画面右下には献辞が記されています。

(小此木)

《名画の扉》

大川美術館企画展から

